

NEWS LETTER

2024.
Vol. 6 師走号

こんにちは！当会は半年に一度、6月のプライド月間と12月の人権月間にニュースレターを発行しています。LGBT関連の注目すべきニュースとして、ここ半年間で、以下のようなものがありました。

★7月10日、広島高裁（倉地真寿美裁判長）が、特例法の外観要件は、「過剰な制約で違憲の疑いがある」と述べました。このことは手術無しでのトランスジェンダーの性別変更の道を開く、初めての司法判断となりました。
★8月4日、SNS上でトランスジェンダーと決めつけられ誹謗中傷を受けていた、パリ五輪のボクシング女子選手のイマネ・ヘリフ選手とリン・ユーティン選手のそれぞれのメダルが確定し、彼女たちのアスリートとしての正当性に何ら問題はないことがIOCにより証明されました。★2019年より全国5か所（札幌・東京・名古屋・大阪・福岡）で継続中の、注目の「結婚の自由をすべての人に」訴訟ですが、10月30日、東京高裁で「同性婚を認めないのは憲法違反」との嬉しい判決が出ました！(◡◡) 谷口園恵裁判長は、憲法24条について、「憲法制定時に議論がなかっただけで、同性カップルに異性間の夫婦と同様の法的保護を与えないという趣旨ではない」ということや、「同性カップルが『配偶者』という法的な関係を作れない不利益は重大である」と説明しました。★12月13日、福岡高裁でも、同様の「違憲判決」が出ました！岡田健裁判長は、「互いに相手を伴侶とし、新たな家族を創設したいという幸福追求の願望は、男女の場合と同性の場合とで何ら変わりはない」と、憲法13条の違反にあたることを述べました。一歩ずつ、着実に進んでいると感じます。裁判の最新情報は、「マリッジフォーオールジャパン Marriage for all japan」のサイトをご覧ください。傍聴応援のほか、ハッシュタグをつけて「#結婚の平等にYES」等、SNSでの応援もできますよ！<https://www.marriageforall.jp/>

2024年7月～12月にかけて以下の6つの講座等を開催しました。

性と生き方の多様性講座 調布LGBT&アライの会

「誰も排除しない、されない、セクマイ女性の生き方」

講師 鳩貝啓美さん
NPO法人レインボーコミュニティcoLLabo代表理事、
臨床心理士・公認心理師、社会福祉士。

渡邊美和さん
NPO法人レインボーコミュニティcoLLabo理事、
国家資格キャリアコンサルタント、社会福祉士。

↑7月はNPO法人レインボーコミュニティcoLLaboから、お二人をお招きし、建設的な活動の実際を知ることができました。coLLaboさんが運営するサイト「みらいふWeb」は、セクマイ女性の等身大の声が反映されていて、とてもお勧めです！<https://mirai-fu.co-llabo.jp/>

性と生き方の多様性講座

「ポリアモリーと性的同意」

2024年8月3日(土)

講師 きのコさん
文筆家

↑8月は以前よりリクエストの多かった「ポリアモリー（複数愛）」について、当事者のきのコさんを講師にお招きしました。講座後には「ポリアモリーへの偏見に気づいた」「自分に対して、またパートナーに対して誠実であろうとする生き方の一つであると思った」等の、ポジティブな感想がいくつも寄せられました。

性と生き方の多様性講座

「トランス男性アテシダーとして、僕の生きる道」

2024年9月14日(土)
14時～16時(13時半開場)

調布市文化会館たづくり映像シアター

講師 井上健斗氏
性同一性障害
トータルサポート会社 G-pit代表

↑9月は、お待たせしました！トランス男性の星！SNS等でファンの多いG-pit 代表の井上健斗さん。彼の波乱万丈なライフストーリーに、の、会場は笑いと涙に包まれていました。講座を通して、その温かいお人柄にさらに魅せられた参加者も多かったことでしょう！

性と生き方の多様性講座

「子どもたちに性の多様性をどう教えるか～和光鶴川小の実践～」

2024年10月13日(日)

講師 青野真澄先生
和光学園和光鶴川小学校養護教諭、
一般社団法人「人間と性」教育研究協議会幹事。1984年生まれ。

中村和美先生
和光学園和光鶴川小学校教諭、
学校体育研究同委員会、教育科学研究会所属。1982年生まれ。

↑10月は、そのレベルの高さ・手厚さに、びっくり！拍手喝采！和光鶴川小学校の現役の先生お二人による、現場で行われている性教育・LGBT教育がテーマでした。

性と生き方の多様性講座

「共に生きる～当事者の家族・Allyとして～」

2024年11月3日(日)

講師 三輪美和子さん
NPO法人LGBTの家族と友人をつなぐ会
東京理事（子どもはリンバイナリー）

高田ゆかりさん
NPO法人LGBTの家族と友人をつなぐ会
（子どもはトランス男子）

↑11月はNPO法人LGBT当事者の家族と友人をつなぐ会より、お二人の親御さんのご登壇でした。お子様をありのままに愛し、共に歩もうとする姿勢に、沢山の感動と勇気をもらいました。

1985年アカデミー賞【最優秀長編記録映画賞】受賞

ハーヴェイ・ミルク

The Times of Harvey Milk

2024年12月22日(日)
なすび
映像シアター
会場13:30
上映14:00～15:30

参加費無料
定員50名

主催 一般社団法人 調布LGBT&アライの会

要申し込み ally2021@chofulgbt.com

↑LGBTQ関連で、誰しも一度は名前を聞いたことがあるでしょう、かのハーヴェイ・ミルク氏。12月は彼のドキュメンタリー自主上映会&座談会でした。



とらつば談義

当会会員4名で、2024年11月26日、zoomミーティングで感想を自由にシェアする「とらつば談義」を行いました\(^o^)/



Kさん
教育関係

Wさん
福祉関係

Tさん
医療関係

Nさん
芸能関係

「虎に翼」とは「鬼に金棒」のような、強い上にもさらに強さが加わる、の意味を持つ古いことわざです。2024年度前期放送のNHK連続TV小説「虎に翼」は、日本で初めて女性として弁護士・判事・家庭裁判所長それぞれを務めた三淵嘉子（みぶち よしこ）さんをモデルに、戦中戦後の法曹界を中心に、個性豊かな人々が織りなす、話題の群像劇でした。主人公寅子の台詞「はて？」は2024年流行語大賞にノミネートされました。ドラマ中で「重い生理痛のため数日間学校を休む主人公」など、今まで朝ドラでは取り上げられなかった側面等も話題になりました。

【憲法14条について】

K よねさんと轟の法律事務所の壁に書かれていた憲法第14条はドラマの根幹を支える、エッセンスだと思えるが、現代の私達は、14条により尊厳を等しく守られているだろうか？

W そうそう。かつて女性は「無能力者」とされ、今では当たり前前に得られている権利が、ドラマ中の時代には認められず、それを獲得するために闘ってきた先人の努力に励まされつつも反面、今も当時と同じ問題が変わらず続いている、我々大人の世代も、それを維持させてきてしまっているという現実がある。その反省に身の引き締まる思いも同時に味わって…。

T ドラマ終盤で「男女雇用均等法」がやっと1985年にできて、そんなに古いの？ってびっくり。男女の働き方はいまだに平等になってないじゃん、国会は男性政治家ばかりだし…。

【「地獄を見る覚悟はあるのか？」】

K 「仕事に人生を見出そう」とする寅子の生き方に、寅子の母親が「地獄を見る覚悟はあるのか？」と詰め寄った、あのシーンは本当に印象的だった。

T 当時の女性の「結婚観」がしのべれますね。
W 今は女性が仕事をもつことも当たり前にはなっているけど、とはいえ、親というのは自分の知らない世界に子どもが踏み出すことを不安に感じるのは現代も同じで、我が子が危険な領域の仕事をしそうになったときに、ドラマ上のお母さんのよう送り出せるかというと、躊躇してしまうかもなあ～。でも子どもを信じて全力で応援できる親でありたいな～とも思います。

【「はて？」と「スン」& 登場人物あれこれ】

K このドラマに不可欠な、主人公が理不尽に思う場面で必ず出てくる「はて？」のキーワードは、「それって、どういう意味ですか？」と、立ち止まって現状を俯瞰して問うことであり、そこで「なんでそんな！」と頭ごなしに怒りをぶつけ立ちあがるのではなく、「はて？」と問いかけるのは、大変実用的な良いスキルなんじゃないかと思った。

T 対極的に、一切問う事をせず「スン」となる…表面上「本心を隠し、大人の対応でやりすごす、見て見ぬふりをする」という、「スン」という状態…食事会で男性陣がホモソーシャルな話題で盛り上がっているときに女性たちが続々と「スン」となっている、あの場面…実際に見たことあるもの。「はて？」と問うたことがない人でも、誰もあんな感じの「スン」は経験ありますよね！

T 主人公寅子の同級生には華族のお嬢様や、男装を通す硬派な女性や、実に様々な背景を持つ仲間がいて、それぞれの背景に生きづらさや苦悩があった。そして法律を学ぶバリエーションな女性陣だけでなく、寅子の親友で元から専業主婦になるのが夢だったという花江の存在も美に丁寧に描かれていた。花江が自らの孤独を嘆き泣くシーンも、とても共感を呼ぶものだった。

K そして、女性だけでなく、男性の生きづらさ（優秀な男には勝てないが、優秀な女にも勝てない辛さ…男も辛いんだよ！のような…）にもスポットが当たっていたのがとてもよかった！



T 寅子に法律の道に進むきっかけを作った、小林薫さん演じる穂高先生、どう思う？

K 「無意識の差別」が思いきり出ていた勝手な人だよ((+_+))

W 理解がありそうで実はわかっていなく、悪気が全然ないってところが厄介ですよ。

T でも、こういう人好きのする大人の男性（で有力者）は現実にもそうじゃない？

N そうね、いわゆる人たらしですね。

W こういう、悪気はないが実は何もわかっていない人に、多くの女性は日々「スン」とさせられているのだろうな…相手は悪い人ではないし、全然わかっていないから「お気遣いありがとうございます」とかうわべでは言うんだろうけど…

T このドラマには、戦災のケガにより車いす生活になる女性や、戦後の闇市の食料を拒否して餓死する元クラスメイトや、結婚し名前を日本の名前に変えて隠れて生きる韓国人の登場人物等、たくさんの人物の諸問題が描かれていたが、「韓国人の生きづらさ」の問題提起をしていたヒャンちゃん切ない。当時の在日の方は、今よりもっと生きづらかったのかなと…。

N 現在も当時と変わらず、韓国人と日本人の問題は続いていますよ！韓国でもすごい数を動員し、最近日本公開になったホラーサスペンス映画の「破墓(パミョ)」は、絶対見てほしい。私達が教わってこなかった日韓の歴史的背景を知ることができる。

【さいごに】

K 天下のNHK朝ドラに、LGBT当事者が重要な役回りとして出てきた、と言うのが非常に意味のあることで、引き続きエンタメで自然な性的少数者を描いてほしい…！

T そう！男装家のよねさんとゲイの轟は、嫌いな人いないんじゃないってくらい、二人とも実に感じの良い、好人物として描かれていた。本当に嬉しい。

W 吉田恵里香さんの脚本が文句なしに秀逸だった。YMCAのワークショップで「ドラマリーディング」と言うのをやったが、実母の理不尽な要求も、寅子の「はて？」も、キラキラした希望も絶望も、登場人物それぞれの人生も、その台詞を声を出してすることでリアルに感じられる。台本、売り切れらしいですね。

K ドラマの名言集がネットで無料で出てますよ～！お勧めです。

T 脚本家の吉田さんがラジオで「このドラマを10年後20年後に振り返って、『古い、こんな時代が？』と思ってもらうのが本望だ」と言っていた。本当に変わるかなあ…いや、私たちが変えていかねばならないんだ！

W 私たちにできることはわずかもかもしれないけど、今これらの問題に取り組まずに将来に持ち越してしまってもよいのか、という問いをドラマから突きつけられた…。

T フェミニズムもLGBT支援も同じ源流を汲んでいる。私たち女性は最も大きなマイノリティ、女性なのだから。

その他の活動・毎月のにじいろお話会や、行政イベントに参加



にじいろお話会で楽しくおしゃべりしてます

のぼりも作りました

虹の動物の代表 ユニコーン

11月16日・17日調布市男女共同参画推進フォーラム「しえいくはんず2024」に出展しました。当会のブースには両日で約100名の方がお見えになりました。多くの出会いに感謝・感謝です！

【会員募集中】当会は、毎月様々な分野の専門家の方を講師にお招きして実施している講座と、市内のふれあいの家で開催しているにじいろお話会の2つが主な活動です。会費は無料です。当事者の方やアライ、アライになりたい方、多様性に関心のある方、仲間になりませんか？



2024年12月22日発行/ (一社) 調布LGBT&アライの会
事務局/〒182-0011東京都調布市深大寺北町4-13-51
マザリーズ助産院内 棚木めぐみ 090-3535-9227